

お客様各位

カタログ等資料中の旧社名の扱いについて

2010年4月1日を以ってNECエレクトロニクス株式会社及び株式会社ルネサステクノロジが合併し、両社の全ての事業が当社に承継されております。従いまして、本資料中には旧社名での表記が残っておりますが、当社の資料として有効ですので、ご理解の程宜しくお願ひ申し上げます。

ルネサスエレクトロニクス ホームページ (<http://www.renesas.com>)

2010年4月1日

ルネサスエレクトロニクス株式会社

【発行】ルネサスエレクトロニクス株式会社 (<http://www.renesas.com>)

【問い合わせ先】 <http://japan.renesas.com/inquiry>

MESC TECHNICAL NEWS

No. M7700-134-0007

7905、7906グループ 仕様変更のお知らせ

7905、7906グループの仕様を変更します。

1. \overline{INT}_4 、 \overline{INT}_0 端子にポート出力強制遮断入力機能追加

(1) 対象品種

7905グループ、7906グループ

(2) 対象端子

7905グループ

ポート出力強制遮断入力端子	ピン配置		遮断対象ポート
	$\overline{P6OUT}_{CUT}/\overline{INT}_4$	QFPパッケージ	
SDIPパッケージ		24ピン	
$\overline{P4OUT}_{CUT}/\overline{INT}_0$	QFPパッケージ	26ピン	ポートP4 ₀ ~ P4 ₇
	SDIPパッケージ	34ピン	

7906グループ

ポート出力強制遮断入力端子	ピン配置		遮断対象ポート
	$\overline{P6OUT}_{CUT}/\overline{INT}_4$	QFPパッケージ	
SDIPパッケージ		17ピン	

(3) 機能説明

ポート出力強制遮断入力端子に立ち下がりエッジを入力すると、遮断対象ポートの方向レジスタは、強制的に“0”となり、入力モードになります。その後、遮断対象ポートからデータを出力する場合は、次の手順にしたがってください。

- (i) ポート出力強制遮断入力端子の入力レベルを“H”レベルに戻してください。
- (ii) 出力したいポートに対応するポートレジスタのビットにデータを書き込んでください。
- (iii) 出力したいポートに対応する方向レジスタのビットを“1”にして、出力モードに設定してください。

ポート出力強制遮断入力端子の入力レベルが“L”のときは、方向レジスタを“1”にすることはできません。

(4) 使用上の注意

ポート出力強制遮断機能は、使用モードに関係なく、常に有効です。

遮断対象ポートをパルス出力端子、三相波形出力端子として使用する場合
パルス出力ポートモード、三相波形モード時に、ポート出力強制遮断入力端子に立ち下がりエッジが入力されると、パルス出力端子、三相波形出力端子はフローティング状態になります（出力停止）。同時にポート方向レジスタも“0”となり、入力モードになります。パルス出力ポートモード、三相波形モードからポート出力に変更するときは、「(3) 機能説明」の手順に従って、出力モードに設定してください。

遮断対象ポートをタイマAの出力端子として使用する場合
タイマAの出力端子として使用しているときに、ポート出力強制遮断入力端子に立ち下がりエッジが入力されても、タイマA出力は停止しませんが、ポート方向レジスタは“0”となり、入力モードになります。タイマA出力端子からポート出力に変更するときは、「(3) 機能説明」の手順に従って、出力モードに設定してください。

遮断対象ポートを常に出力ポートとして使用する場合
ポート出力強制遮断入力端子は、抵抗を介してVccに接続してください。
 \overline{INT}_4 、 \overline{INT}_0 端子として使用することはできません。

ポート出力強制遮断入力端子を \overline{INT}_4 、 \overline{INT}_0 端子として使用する場合
遮断対象ポートは入力モードで使用してください。

(5) 仕様変更品の識別方法

7905グループ

フラッシュメモリ内蔵版及びマスクROM内蔵版とも、すべて仕様変更品

7906グループ

M37906F8CFP/SP：三菱製造コードで識別してください。

以下のコードは、仕様変更前の製品です。

944100、950100、953100、003100、007100、015101

マスクROM内蔵版：すべて仕様変更品

なお、M37905FCCFP/SP、M37906FCCFP/SPは、テクニカルニュースNo.M7700-133-0007でお知らせしましたように、開発中止となっております。これまでの出荷サンプルにつきましては、すべて仕様変更しておりません。

2. フラッシュメモリ内蔵版のフラッシュメモリ容量変更

(1) 対象品種

M37905F8CFP、M37905F8CSP、M37906F8CFP、M37906F8CSP

(2) 内容

フラッシュメモリ容量を62Kバイトから60Kバイトに変更します。

フラッシュメモリ容量拡張ビット (AE₁₆番地のビット7) の機能は使用しないでください。“0”に固定してください。リセット時は“0”になります。

3. 割り込み禁止フラグ (I) 設定時の注意

(1) 対象品種

7905グループ、7906グループ

(2) 内容

割り込み禁止フラグ (I) を“1”にするときは、SEI、SEP命令を使用できます。
テクニカルニュースNo.M7700-99-9905 2.1項掲載の注意事項の対象品種に、7905、7906グループは含まれません。

(3) 開発サポートツールの対応

テクニカルニュースNo.M7700-99-9905 2.1 (3) 項掲載内容と変更ありません。
NC79WA

SEP命令でIフラグの設定を行うと、ワーニングが出ますが、7905、7906グループでは、SEP命令でのIフラグの設定は可能です。

MR79

Iフラグは、SEI命令で設定しています。

4. PLP命令、PUL命令使用時の注意

(1) 対象品種

7905グループ、7906グループ

(2) 内容

PLP命令、PUL命令は、割り込み禁止フラグ (I) が禁止 (“1”)、許可 (“0”)、どちらの状態でも、実行できます。

テクニカルニュースNo.M7700-109-9909掲載の注意事項の対象品種に、7905、7906グループは含まれません。

以上